

知能情報システム学科にて学部生・大学院生を対象とした プログラミングハッカソンを実施

【概要】

平成30年11月13日(火) 4・5 校時に、知能情報システム学科・専攻の学部生・大学院生を対象にプログラミングハッカソンを実施しました。ハッカソンは、IT業界で生まれたイベントで、「ハック(hack:プログラミングに取り組む)」と「マラソン」を組み合わせた造語になっています。学生らは、インターネットを利用したオンラインのシステムでプログラミングに取り組み、自身のランキングをリアルタイムに確認しながら、実力を競い合いました。コンテストを楽しみながら、自身の得意・不得意なスキルを認識することができ、それが「自信」や「やる気」にもつながります。終了後のアンケートからは、イベントが大変好評であったことが明らかになりました。

【本文】

平成30年11月13日(火) 4・5 校時に、知能情報システム学科・専攻の学部生・大学院生を対象にしたプログラミングハッカソンを実施しました。プログラミングの学習をはじめたばかりの学部1年生、および就職活動を直近に控えた学部3年生と大学院1年生に参加を呼びかけ、100名程度の学生が参加しました。

本企画は、東京都中央区晴海にあるITスタートアップ企業の444株式会社(代表取締役社長 薗田 正和氏、https://triple-four.com/)の協力を得て、同社が開発したTechFUL(テックフル)を利用して実施しました。このシステムは、学生や若手ITエンジニアを中心に、プログラミングスキルを診断し、「見える化」するサービスです。C++、Java、Python などの様々なプログラミング言語に対応しており、オンラインで出題される課題に取り組む事でスキル評価が可能です。学生は自身の得意な言語を使って参加しました。インターネットを利用して、TechFULのホームページにアクセスする事で、いつでもどこからでも参加することができ、同時に数百名程度での実施も可能です。今回は、2つの部屋に学生を集め同時刻に開催しました。実施中は、自身の得点とランキングがリアルタイムにスクリーンに表示され、学生らはスコアを競い合うことを楽しみながら、コンテストに取り組みます。コンテスト終了後には、上位入賞者を表彰し、健闘をたたえるとともに、今後のますますの活躍を祈念しました。





図 1. コンテスト実施中の模様 (左:学部1年生,右:学部3年生と大学院1年生)





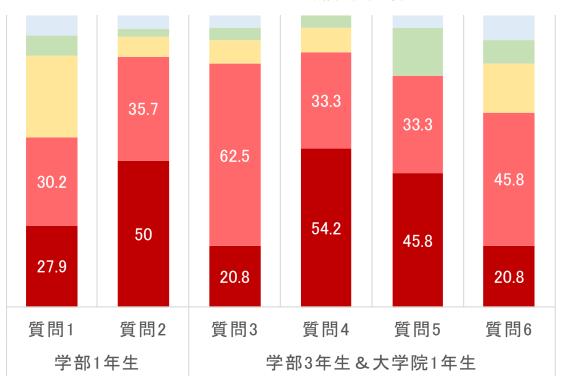
図 2. コンテスト実施中のランキング表示と優秀者の表彰

実施後に参加した学生にアンケートを実施した結果、非常に好評であり、確かな手応えが得られました。学部1年生へのアンケートにおいては、「コンテストが楽しかった」とする学生こそ58%にとどまったものの、「プログラミング能力の向上につながる」と回答する学生は85%を超えました。就職を控えた学部3年生と大学院1年生においては、「コンテストが楽しかった」、「またコンテストに参加したい」とする学生が、それぞれ83%、87%に達し、「自信ややる気につながる」とする学生は79%でした。一方で、Wi-Fiネットワークの接続状況が悪いなどの指摘もあったことから、今後はこれらの点を改善し、より充実したイベントにできればと考えております。

ハッカソンは、IT業界で生まれた造語であり「ハック (hack: プログラミングに取り組む)」と「マラソン」を組み合わせたものです。本来は、新商品や新サービスを生み出すオープンイノベーション手法の一つですが、参加者が切磋琢磨することで、スキルアップや人材育成につながることから、日本国内でも多くの企業がハッカソンイベントを開催しています。学生らは、コンテストを楽しみながら、自身の得意・不得意なスキルを認識することができ、それが「自信」や「やる気」につながります。また、普段の大学教育だけでは測れない才能の発掘につながる可能性もあります。就職を控えた学生らが自身の実力を「見える化」する有

効な手段にもなり得ることから、就職に役立つとする学生も多く見られました。就職後の離職率も問題となる昨今において、企業選択における適正なマッチングを図ることにも寄与できればと考えております。

<<学部1年生への質問>> 質問1 コンテストは楽しかった 質問2 プログラミング能力の向上につながる <<学部3年生&大学院1年生への質問>> 質問3 コンテストは楽しかった 質問4 またコンテストに参加したい 質問5 自信ややる気につながる 質問6 就活に役立つ



■とてもそう思う■まあまあそう思う■どちらでもない■あまりそう思わない■とてもそう思わない

図 3. アンケートの結果